

## 血中 BNP/NTproBNP について

BNP/NT-proBNP は、心臓の状態を反映するバイオマーカーで、正常の状態でも、血圧や体内の水分を適切に保つために、主に心室で生合成、分泌されていますが、心室にかかる壁応力（伸展ストレス）に応じて、速やかに生成・分泌が亢進するため、壁応力が增大する心不全では、その重症度に応じて血中濃度が増加します。

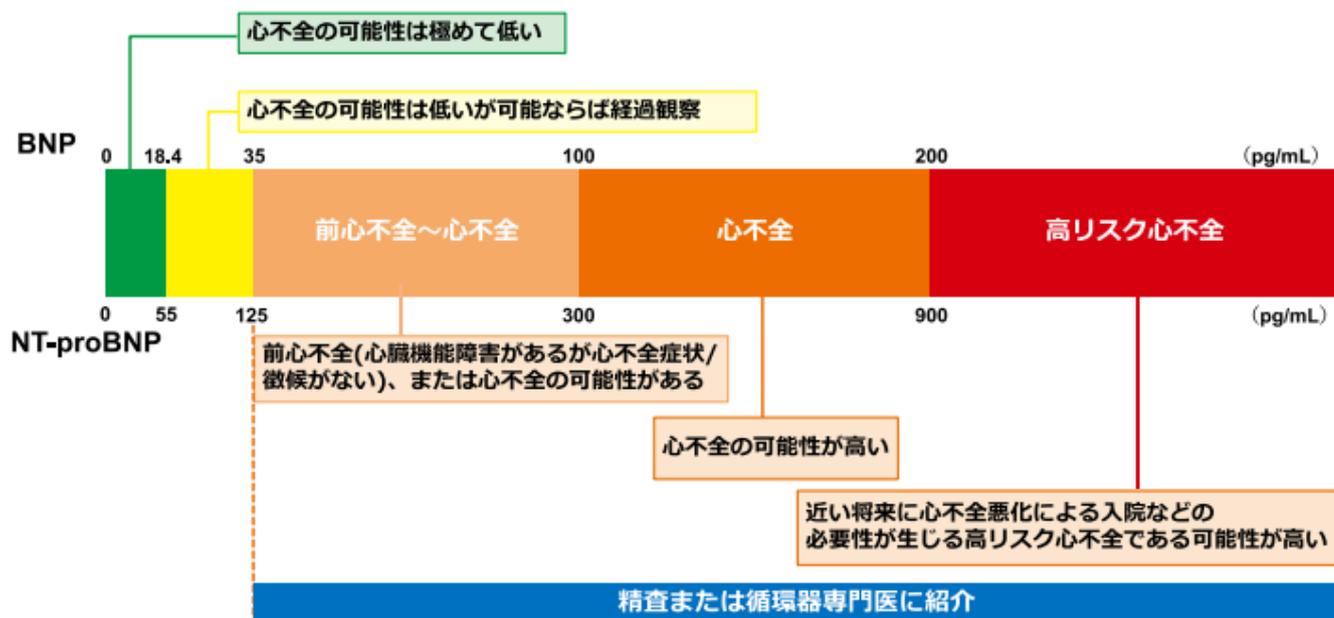
そのため、心不全の診断、重症度、予後予測のバイオマーカーとして心不全ガイドラインにおいて、その測定が推奨されています。

当院でも、動悸、息切れ、足のむくみなどの心不全を疑う患者さんは必ず BNP/NT-proBNP の測定を行っていますが、症状のない方でも、血圧、血糖コントロールの悪い方や長期間高血圧、糖尿病治療をされている方は、心室にかかる壁応力（伸展ストレス）が増大し、心不全発症リスク状態となっている可能性は十分にあるため、積極的に BNP/NT-proBNP 測定を行うようにしています。

一方で、BNP/NT-proBNP は、心室のみならず心房からも 10%ほど分泌されるため、心房細動などの不整脈でも軽度上昇することがあり、さらに心不全、不整脈、その他の心疾患がなくても、年齢、性別（女性）、腎機能障害などの影響で上昇することもあるため、注意が必要です。

下図のとおり日本心不全学会より「血中 BNP や NT-proBNP を用いた心不全診療に関するステートメント 2023 年改訂版」に注意すべきカットオフ値が記載されていますのでご参照ください。ちなみに BNP 35 pg/ml 以上、NT-proBNP 125 pg/ml 以上になると前心不全、または心不全の可能性があるので、症状のあるなしにかかわらず循環器専門医の受診が必要とされています。当院では BNP/NT-proBNP が上昇している患者さんに対して積極的に心臓超音波検査を行い原因検索に努めておりますので、気軽にご相談ください。

日本心不全学会



「血中 BNP や NT-proBNP を用いた心不全診療に関するステートメント 2023 年改訂版」